



▲ スタートを控える選手たち 最前列にはシエルブルー鹿屋 ▲ 周回ごとに順位が目まぐるしく変動する激戦に



▲ 時速 50 キロを超えるスピードで駆け抜けます ▲ 出走している郷土の先輩たちに声援を送ります

白熱のスピリット合戦 4年連続の志布志閉鎖  
第4回 志布志クリテリウムが開催されました

2月22日、「2026 Jクリテリウム ツアー開幕戦」として、第4回 JBCF 志布志クリテリウムがおかげ公園特設コースにて開催されました。前日21日には、第4回鹿屋・肝付ロードレースが「Jプロツアー開幕戦」として開催され、今年も大隅から国内最高峰のレースがスタートしました。大トリを飾った Jクリテリウム ツアーレース（1周2.9km×20周 計58km）では、レース途中から雨が降り始め、直角カーブの局面では、大きなブレーキ音が響き渡るなど、雨天でのスピリット勝負が展開されました。レースには志布志市出身の津留峻選手、福迫倅輔選手（いずれも伊崎田出身 シエルブルー鹿屋所属）も出走し、地元の声援を受ける中、完走しました。地元チーム、シエルブルー鹿屋の選手では、伊澤将也選手が昨年の8位を上回る6位となり、表彰台まであと僅かに迫るレースを展開しました。



▲ 入賞者には志布志の特産品を贈呈 ▲ コースの難所 180度のヘアピンカーブ



# 下平市政 3期目への決意

このたび、多くの市民の皆さまから温かいご支援をいただき、引き続き市長として3期目の市政を担わせていただくことになりました。

改めて心から感謝を申し上げます。これまでの2期8年間、市政前に進めることができたのは、多くの皆さまのご理解とご協力、ご支援によるものであり、結果として多くの公約を実現することができました。

しかしながら、人口減少、少子高齢化、物価高騰、災害の備えなど、本市を取り巻く環境は、これまで以上に厳しさを増しております。

これからの4年間は、これまでの延長線ではなく、社会のさまざまな変化に対応しながら、これからの進むべき方向性をしっかりと見極め、次世代に責任を持つ政策を進めてまいります。

暮らしの分野ではすべての市民が年齢、性別、国籍、障がいの有無を問わず、安心して生活ができる、暮らしの基盤を強化してまいります。

子育て、教育、医療、福祉、防災、デジタル行政など、市民の皆さまの暮らしに寄り添った政策を進めてまいります。

経済分野では、志布志港を核とした物流と貿易、企業誘致、商工観光、農林水産業の振興、さらに関係人口や移住による人材循環政策について、本市の成長戦略として取り組んでまいります。

市政運営の中で、私が最も大切にしているのは、現場の声です。今回の選挙期間においても多くの市民の皆さまからさまざまな声をいただきました。

3期目の市政運営においても、皆さまの声に真摯に耳を傾け、声をカタチに変え、必ず市政に反映し、安全安心の暮らしと、地域の産業振興を大きな柱として、「誰一人取り残さない」、市民が主役のまちづくり」に、全身全霊をかけて取り組んでまいります。

市民のため、志布志市の未来のために、引き続き市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます、就任のあいさつといたします。

令和8年2月12日  
志布志市長 下平 晴行



▲ 市職員に3期目の決意を述べる下平市長



▲ 多くの市民が参加した登庁セレモニー